

社会人のための情報システム誌  
— 経営近代化のシステム研究 —

# Computer Report 11

2012 No.698

## 3 はじめの言葉

## 4 日本人が最もできていない

### 国際ルールの理解

田原文夫

国際的議論は、思いっきり自己主張するところから始まる。その主張が国益だ。国益の主張を大声です。そこから事は始まる。日本は、他者への慮りが先に立ち、遠慮がちに言う。そして相手も配慮してくれることを期待する。国際社会はやくざの世界。その理解がないから、初めから及び腰になる。強く出ると喧嘩になる、戦争になるとの思い込みが、国際社会ではバカにされる。お互いの主張が対立し、頂点に達して、妥協が始まる。それは知っていながら、政治は妥協の産物という。バカ丸出しである。初めから妥協点を模索しながら、どうして有利な妥協が出来るのか。口ごもった言い方は、何かやましいことがあるのだろうと、まず勘ぐられる。勘ぐりを助長することを平気で言う。国際関係は、何故軍事力が力を持つのか、そういうイロハから国民は理解すべきで、そのための教育も必要だ。もちろん、政治家もしっかりしなければならない。経営者もだ。自社の業績だけに目が行き、横暴な中国に媚び諂う。領土なんかどうでもいい。国なんかどうでもいい。儲かりさえすればいい。中には「奴隷の平和」を声高に言う奴まで出だした。敵が攻めてくれば、白旗を掲げて逃げればいい。それで助かると言う単純さには言いようがない。

## 10 情報社会を考える その26

### 情報社会作りに、どう関与し、どう貢献していくか

編集部

昨今の日本での情報社会作りには、肝心の臨戦認識が欠如しているようである。インターネット上のセキュリティリスクだけでなく、近隣諸国から領土的脅威に晒されている。有事には国家の経済力がものを言う。いつまでも不景気風を浴びている余裕はない。日本再生、起死回生のため、国家のセキュリティリスクを回避するため、日本は、直ちに防衛産業の充実を図るべきである。

## 13 日本再生／世界競争力回復のカギ

### 何故 M-B I M構築が必要か その21

水田 浩

18兆円を超え、当初5年間で見込んだ19兆円に迫る。この復興費で行われる事業は、全自治体が2000年代に導入を決めた建設建設CALSを、国交省の電子入札と電子納品のガイドラインで実施される。

## 18 連載 アーキテクチャ論 (19)

### アーキテクチャ有意要求

山本修一郎

国立大学法人 名古屋大学 情報連携統括本部 情報戦略室 教授

本稿では、アーキテクチャに影響を与える要求について紹介する。この理由は、アーキテクチャの妥当性を評価するためには、要求に対してアーキテクチャの有効性を議論する必要があるためである。また要求に基づいてアーキテクチャを評価する手法についても解説する。

## 29 情報システム環境の変化に伴う

### セキュリティリスクサーベイの実施

aism

とにもかくにも次々と登場する新たな情報システム機器とともに、セキュリティ危機も、次々と発生する。新規に情報を扱い、活用する人材（ユーザー）も次々と加わる。実に企業情報システムをとりまく環境変化は目まぐるしい。ほんの10年余り前に策定されたセキュリティポリシーが、早くも見直しを迫られている理由である。そのためにも、体感的に誰もが必要だと考えるセキュリティリスクサーベイなのだが、実際の実行／実施となると、これもなかなか容易ではない。

## 34 ものの造れる日本再生に向けて 第二／第三の創業へ Dr.ベスト 第14回 ナレッジマネジメントに対応する人的資源管理（HRM）

1970年代のオイルショック後の1980年代は「激動の時代」と予測されたが、実は、「ジャパンアズNo1＝No1としてのニッポン」という、今にして思えば黄金期だった。その黄金の夢が一気に醒めたのが、1991年のバブル崩壊という悪夢からの出発だった。そしてそれは、さらに厳しい姿勢で日本全体の産業界のリストラクチャリングに挑戦する時代の幕開きだった。まさに温故知新である。新興国にはない一企業の枠を超えたリストラクチャリングの歴史をひもといてみよう。鉄鋼、造船、エンジニアリング、自動車、電気・電子業界の動向を追いながら、これからの日本再生に向けて踏み込んだ展望をしてみたい。

## 40 IT新時代とパラダイム・シフト

### 第38回 遠隔操作ウィルスによる

冤罪事件の根源は

根本忠明

世間を騒がしている一連の遠隔操作ウィルス事件で、誤認捜査や冤罪事件が含まれてい

ることが判明した。原因は、内外から遠隔操作ウィルスの可能性が指摘されていたにも関わらず、警察・検察が最初から単純なネット予告犯罪であると決めつけていたことによる。この遠因は、4年前に社会問題化した秋葉原無差別殺傷事件とその後の取り締まり体制にある。二転三転したマスコミ報道の経緯と4年前の予告犯行事件との関係、今後の課題について、検討してみることにする。

#### 4 4 続インテリジェンスへのいざない 34 インテリジェンスを具現化する コミュニケーション

今井 武

情報管理協会は、インテリジェンス情報を創造し、経営トップにアドバイスできる人材を「情報管理士」という形で育成してきた実績を持っている。客観的な事実データから、インフォメーション情報を得て、そこからインテリジェンス情報を創造するだけで意味がない。それを社会的に具現化することが肝要である。インテリジェンスを具現化するには、それを理解し、協力してくれるパートナーが必要である。いかにして協力者を見つけ、インテリジェンスを理解してもらうか。経営トップも協力者の候補のひとつである。

#### 4 7 一味違うウェブ検索 第二十八話 資料のチェック⑤

権威による情報操作に注意する ぐうのうえぶへい

前回の最後に触れた「権威を疑え」について、もう少し詳しく注意と対応策を提示したい。人間だれもが権威に弱い。日本人は特に、肩書による権威に弱いといわていれる。今回は、「権威による情報操作」について読者の注意を喚起したい。

#### 5 0 連載 ことわざ笑タイム

すぎやまチヒロ

☆☆

#### WebCR 編集部からのお知らせ

本誌に連載／掲載されている記事に関するご質問、ご意見をお待ちしております。近い将来に予定されているプロジェクトに先立って不安や問題点の確認をなさりたい方、現在進行中のシステムのプロジェクトマネジメントにおけるトラブル関連など、何でも結構ですので、下記メールアドレスまでお寄せ下さい。

[cr-info@jmsi.co.jp](mailto:cr-info@jmsi.co.jp)

☆☆

## セミナー／講演会の講師紹介

ユーザー会/各種研究会/勉強会における  
セミナー/講演会での講師をご紹介します。

クラウドサービス導入前のチェックポイント

クラウドサービスは果たしてTCO削減に寄与するか

レガシーマイグレーションの進め方と留意点

これからの企業情報システム構築のポイント

これからの金融情報システムの課題

役に立つ情報管理の実践と課題

情報セキュリティ監査の受け方／臨み方

リポジトリベースのシステム資源管理

その他 クラウドサービス導入にお悩みの方

など 各種コンサルティングも承ります

ご質問／何でも相談は下記まで  
株式会社 日本経営科学研究所  
ComputerReport編集部

[cr-info@jmsi.co.jp](mailto:cr-info@jmsi.co.jp)

# CR 選書のご案内

**CR選書**

**改訂版**  
**データ・ウェアハウス**

定価 本体 2,816円+税 送料(〒300) A5版 289頁

石井 義興 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 目録が必要としているデータ	第七章 情報システム部門しかできないデータ・ウェアハウスのサポート
第二章 データベースとデータ・ウェアハウスの構造と	第八章 データ・ウェアハウスの構築とデータ移行ツール
第三章 OLAP用のデータ・ウェアハウス	第九章 データ・ウェアハウスの利用とエンドユーザーツール
第四章 リレーショナル・モデルとネステッド・リレーショナル・モデル	第十章 データ・ウェアハウスの保守とオートメーション
第五章 正規化の問題点とデータ・ウェアハウス	
第六章 データ・ウェアハウス管理システム	付録

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

---

**実践データ・ウェアハウス**  
**OLAP**

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A5版 249頁

豊島一政・木村 哲 共著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 これまでのEUCIでできなかったこと	第七章 多次元データベースを作る
第二章 OLAPの定義	第八章 多次元データベースの構造
第三章 Code博士によるOLAPプログラムの評価ツール	第九章 多次元データベースとアプリケーション
第四章 分析処理の歴史	第十章 OLAP/サーバーとフロントエンド
第五章 OLAP(多次元データベース)の形	第十一章 OLAPアプリケーションパッケージ
第六章 データウェアハウスとOLAP	付録

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**CR選書**

**消費者行動論**

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 181頁

田原文夫 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 消費者行動論	第四章 消費者意志決定
第二章 消費者行動と心理的決定要素	第五章 消費者行動トピックス
第三章 消費者行動と社会的決定要素	第六章 人間であること(人間行動トピックス)

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

---

aism 研究活動報告  
**インターネットセキュリティの**  
**落とし穴**

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 197頁

一橋大学教授 安田 聖 監修  
aism情報セキュリティ・マシントリプル研究会 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 落とし穴を回避するための基礎テクノロジー	第十一章 WORM、KLEZの監視と駆除
第二章 aism情報セキュリティマシントリプル研究会の発足	第十二章 メールが通らない
第三章 認知される電子署名方式の基本原則	第十三章 生体ネット利用のための情報オーナーの建設
第四章 世界を駆けめぐったCodeRedワーム	第十四章 最近のインターネット防衛戦線心得
第五章 情報システムにおけるリスク	第十五章 ITガバナンスの意識と情報セキュリティ対策
第六章 情報漏洩対策	第十六章 情報セキュリティ対策とセキュリティ教育
第七章 VPN(バーチャルプライベートネットワーク)	第十七章 ケーススタディ「情報セキュリティ教育」
第八章 aismの2012年度の事業計画	第十八章 セキュリティポリシー作成にあたってのノウハウ
第九章 情報セキュリティ情報研究会の発足と課題	
第十章 インターネット関連の苦情と不正アクセス	

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**CR選書**

エンタープライズ情報システム設計の基本書！  
**トップ主導の**  
**情報システム革新**

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 271頁

高田 顯重 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 情報システム利用環境の変遷と今日的課題	第五章 情報システム監査
第二章 経営活動と情報システム	第六章 情報システム部門の体制革新
第三章 経営情報システム革新の方向	第七章 情報システムの成果評価
第四章 トップ主導の情報システム開発	第八章 変化対応のシステム作り

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

---

**計量モデルの構造と解法**  
—オーダーリングとスパース—

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 213頁

安田 聖 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一部 計量モデル	第二部 大規模モデルの効率的解法
第一章 計量モデルと計量モデルの解法と歴史	第五章 計量モデルの分解方法
第二章 線形計量モデルの解法	第六章 方型式のオーダーリング
第三章 非線形計量モデルの解法	第七章 大規模モデルの解法
第四章 反復法の問題点	第八章 スパース
付録・電子計算機の高速化と計量方法	

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**CR選書**

**『いざ！というときの(得)広報』**  
すぐに役立つ実践117カ条

定価 本体 1,748円+税 送料(〒300) A5版 228頁

加藤 洋一 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

■ 広報ビジネスの前提条件	■ 売定文化企業体質
■ ニュースリリースは東方向選定	■ 守るも攻めるも広報が窓口
■ 活字媒体の特性をチェックする	■ あなたならどう対応する「事例編」
■ 記事の材料(ネタ)と発表のテクニック	<付> 記事とうまく付き合うための鉄則(まとめ)

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

---

**ザ・ワールドリンク**  
がんばれ、国際グローバルサーバー—  
IBM社に挑んだ国際情報システム作りの物語

定価 本体 1,848円+税 送料(〒300) A5版 268頁

迫 忠幸・湯浅 誠 共著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 発端	第十一章 日本開港法の違い
第二章 あるプロジェクト	第十二章 米軍チーム撤退の危機
第三章 新しいシステムへの働き	第十三章 新たな仲間
第四章 WOOIに向けて	第十四章 米軍撤退所帯と新たな組み
第五章 FJO, IBM競争	第十五章 開港場建設とバレンタイン
第六章 日本プロジェクトチームの発足	第十六章 ユーザー教育
第七章 プロジェクト開始	第十七章 日本運用体制と本番後日誌
第八章 米軍チーム立ち上りの流れ	第十八章 既存システムとのデータ交換の問題
第九章 大きな壁、英語コミュニケーション	第十九章 稼働時の一 直前、稼働、直後の苦しみ
第十章 米軍チーム、異なる三人組	第二十章 稼働時の二 安定期間と北米センター移設

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)